

令和5年度第2回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

令和5年11月9日（木） 午前10時00分～午前11時30分

2 会場

花巻市生涯学園都市会館（まなび学園） 3階 第2・3中ホール

3 出席者

（1）委員出席者

小田島浩徳委員、浅沼幸二委員、佐々木博委員、佐藤貴哉委員、石川恭也委員、中村良則委員、和川央委員、高橋忠和委員、佐藤充委員、中村佳子委員、熊谷仁見委員、菅原康之委員、川村厚委員 以上13名

（2）委員欠席者

高橋豊委員、須川和紀委員、漆沢俊明委員、松葉孝博委員、

（3）市側出席者

上田東一市長、富澤秀和秘書政策課長、伊藤浩秘書政策課課長補佐、八重樫尚孝秘書政策課企画調整係長、吉田真彦秘書政策課上席主査、菊池遼秘書政策課主査

4 会議内容

（1）開会

（2）市長あいさつ

【上田市長】本日は、花巻市人口ビジョンの改訂と、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂についてご説明申し上げて、ご意見を賜ります。

人口ビジョンにつきましては、社人研という国の機関の想定より花巻市の人口は多少減り方が少なくなっておりますが、社会増に関してはこの4年間なんとか確保しているものの、自然減に関しては今75歳以上の方が増えており、まだまだ増え続けます。次は85歳以上が増える局面となるわけでありまして、そういう意味で亡くなられた方の人数が想定よりも多いという状況が続いており、これを何とかするのはなかなか難しい状況です。それについても説明させていただいてご意見を賜りたいと思っております。

今回、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂でございますけども、大幅な改訂はしないということでございます。現在の花巻市まちづくり総合計画が令和5年度、令和6年3月までということで、第2次花巻市まちづくり総合計画の策定作業に入っているところですが、このまち・ひと・しごと創生総合戦略は令和3年度に策定したものの、計画期間は令和5年度、来年3月までということになりまして、花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンと同じ時期に終わる予定となっております。

一方、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中身を今策定作業中の第2次花巻市まちづくり総合計画、あるいはそれに基づく4年間の前期アクションプランが出来上がったの

ちに、その計画と整合性を持って作らなければいけないということになりますと、来年の3月までにこれを改訂するのは難しいため、これは適切ではないのではと考えまして、まず計画期間を1年間伸ばして、次期総合計画長期ビジョンあるいは前期アクションプランの出来上がったものを見ながら、さらにまち・ひと・しごと創生総合戦略の観点から、1年間かけて作るというのが適切ではないかということから、それについて説明させていただいて、皆様のご意見をいただくということになります。

いろいろと重要な局面が出てきておりますので、皆様も忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 議事

【中村良則座長】 それでは早速議事の方に移りたいと思います。

次第の3番目説明 (1) 花巻市人口ビジョンの改訂案について事務局より説明をお願いいたします。

富澤秘書政策課長から、資料 No. 1 「花巻市人口ビジョン改訂案」に基づき説明。

【中村良則座長】 最後のところ、図表 57 の令和 13 年（2031 年）のピンクで囲んだ数字について、83,110 人が最終的には 85,013 人となりますね。この 85,013 人というのはどういう数字か教えてください。

【富澤秘書政策課長】 ピンクの網掛けで囲んだ 85,013 人は人口減少対策に取り組み、この数値を目指すと設定しています。

【中村良則座長】 政策効果が十分に出た場合、この数字まで期待があるということですね。委員の皆さんから何か人口ビジョンの改訂についてご質問ご意見等あればお願いいたします。

【高橋忠和委員】 岩手銀行花巻支店の高橋と申します。死亡数の増加が見られたと思いますが、それはコロナの影響もあって死亡が確認されたという数字も含んでいるのでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】 裏付けとしてコロナを原因とした死亡者数は何人かというのは取れてないため、はっきりとした数字は申し上げられないのですが、全国状況を見ますと、死亡者の人数が昨年、増えているというような結果も出ておる中でコロナというところも原因としてあると見ることはできると思いますので、75 歳以上の人数が多くなってきた中で、コロナの影響もあり得るだろうと考えております。

【高橋忠和委員】 そうすると、将来的にはコロナの影響がなくなり、ある程度死亡の数も抑えられる可能性も加味しているところはあるのでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】 今回推計の中で、平成 30 年のいわゆる社人研の推計がございまして、そちらを元に計算をさせていただき、成行値を出した上で将来人口目標を改めて設定をしました。コロナの影響については平成 30 年の社人研の推計の中には、おそらく入ってはいないと考えられますので加味されてはいないと捉えております。

【中村座長】 他にいかがでしょうか。

【和川央委員】岩手県立大学の和川と申します。非常に精緻で細かい分析お疲れ様でした。ありがとうございます。

私から大きく2点ほどご質問をさせていただきます。1点目は47ページの将来人口の設定の考え方ですけれども、ここにまず一番下の緑のところ、平成30年の社人研の推計値が出ていて、これが一番人口減少が大きいので、それに対していろいろ政策をすれば上振れしますよということをご説明いただきました。

その上振れを支える政策目標の考え方としてここに書いてありますが、まず合計特殊出生率を上げますよと。これはわかりやすいと思いますが、その他の純移動率と生存率を社人研の平成30年の数値に置き換えましたとなっておりまして、社人研の推計値が一番低い数字なのに置き換えることでなぜこれが人口増に繋がったのかなという推計結果に対する考え方と、そもそもなぜこれを目標にしたのかという質問がまず1つです。

2点目が、3ページ目をご覧いただければと思います。以前集計した将来推計値と現状の乖離が書いてありますが、現在目標値に対して達成しなかったとご説明でしたが、人口が変化するのは大きく分けて理由が二つ、細かく挙げれば四つあります。

社会減が自然減かと大きく分ければこの2つ。細かく挙げれば、出ていく人が増えるか、入る人が減るか。死ぬ人が増えるか、生まれる人が減るか。4つしかないわけです。そうしたときにこの目標値は4分類でどう目標を立てていらっしゃるって、どこが悪かったから人口が減ったのかと議論をしないとPDCAサイクルは回らないのではないかなと思いますけれども、そもそも目標値の2区分もしくは4区分でどういう目標を設定することで、こういう目標に達しているのかというところをお知らせいただきたいというのが2点目の質問です。以上です。

【中村良則座長】この推計の考え方というか根拠についてですね。

【吉田首席主査】1点目の社人研の推計が最も低い値となっている中で、こちらをベースにした純移動率、それから生存率をなぜ採用しているのかというご質問でございますけれども、結論から言いますと、この純移動率と生存率を算定している公式な数値が、平成30年社人研推計しか使えるものがなかったというのが実情としてございます。

ただ、こちらの数字をそのまま採用するというのではなく、平成27年に策定した当初の人口ビジョンのときもでしたが、当時は2035年あたりまでのところで、転出が最も多い20代の移動率が減少する、つまり転出抑制が進むことを見込む若干の係数補正をかけているものと、花巻市の特徴として30代以上になるとUターン者が戻ってきやすい傾向にあるというものを踏まえ、そちらの世代には移動率を足し算し、Uターン者が増えるという補正をそれぞれかけて、それ以降は増えた状態が動かないという条件で、将来人口目標を算定しております。

その補正係数が適切かどうかというところではありますが、いずれにせよ社人研の公表した率をそのまま使用して将来人口目標を出しているというのではなく、そういった係数に補正をかけて上方修正した上で将来人口目標を出しているということです。あとは社人研推計の基礎となる人口が国勢調査のデータになります。こちらと花巻市の住民基本台帳では推計の元になる令和2年の人口に1,000人から2,000人ぐらいの

差がありますので、将来人口目標の推計に当たっては花巻市の住民基本台帳をベースにして、将来人口推計を行っているので、社人研推計よりもベースが上がっているということもあります。

2点目の目標値に対する自然増減と、それから社会増減の設定の考え方というところでございますけれども、推計を行う基準になる人口がありまして、先ほど申し上げた通り社会増減の方に補正をかけた形で社会増減がどれぐらいの形で動いていくかというところを算定した上で、その差し引きという形で結果的に自然増減が出るというような作りになっております。

そのため、社会増減については、この数字の掛け算などをする中でこういうふうに移していただくというものはある程度ありますけれども、死亡が何人で出生がどれぐらいのところに移していか、あるいは目標としてどれぐらいの数字になるのかというところについて、死亡については何歳でお亡くなりになるとか、出生についてもこの年は何人生まれてくるだろうというところの設定が非常に難しいところがございます。全体人口から社会増減を差し引いて、結果的に自然増減が算出されるというところで、目標としての自然増減や社会増減の内訳のところを細かいところまではお示しするのが難しいものとなっております。

本来であればご指摘の通り、それぞれの目標値を持ったうえで推計するのが適切であると思いますが、そこまでは至らないところでありまして、可能な限り数値を出させていただいたというところでございます。足りているかどうかわかりませんが、一旦のご回答とさせていただきます。

【和川央委員】ありがとうございます。細かい点があるので、後ほど個別に確認をさせていただきます。

【中村良則座長】なかなか人口推計というのは実際にやると相当難しい。実際かなり推測というか予測というか願望が入るがどれだけ抑えることができるかということがポイントとなります。

49 ページに戻りますけれども、花巻市の人口ビジョンの改訂案としては、令和 47 年の人口目標は 59,519 人ということでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】お話の通り、令和 47 年、2065 年の目標であります 59,519 人、47 ページの表現で申し上げますと、令和 47 年、2065 年に約 59,500 人という目標について今回説明をさせていただいたところでございます。

【和川央委員】1点確認させてください。37 ページの人口増減と住民所得という記述について確認です。

ここで言っている経済基盤というのはお財布に入っている家計ということ想定されていらっしゃるのか、花巻市の経済情勢いわゆる GDP のことを経済基盤とおっしゃっているのか、どちらを指していらっしゃるのか確認させてもらえればと思います。

【吉田上席主査】こちらの相関図については、住民所得と人口増減の相関を示したグラフとご理解いただいているところと思います。この所得というのはそれぞれの世帯における所得の関係であり、GDP というよりはそれぞれの市町村にお住まいの方の個々の所得の話と理解をしているところであります。

【和川央委員】ありがとうございます。住民所得というと、GDPを指すことが統計学的には一般的なもので、これは本当にお財布なのかGDPなのかというのは、一旦確認された方がいいかなと思います。

【吉田上席主査】ありがとうございます。確認させていただき、必要に応じて今後の修正等検討させていただきたいと思います。

【中村良則座長】よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。それでは、次の（２）第２期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（素案）について説明をお願いします。

富澤秘書政策課長から、資料No.2-1「第２期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（素案）」及び資料No.2-2「第２期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（素案）」に係る新旧対照表に基づき説明。

【中村良則座長】総合戦略の期間を単純に延長するが、それは総合計画の策定に合わせるためという趣旨だと思います。新旧対照表については１ページ、２ページ目で文章追加したと。18ページに宮沢賢治童話村整備事業を追加し、地方創生関係交付金の活用を検討していきたいということ。13、14ページ以降も目標数値の年度を令和５年度は全て令和６年度に置き換えるという趣旨です。

ただいまご説明いただきましたけれども、どんな観点でも結構だと思いますのでご意見ご質問あればお願いいたします。

【和川央委員】説明を伺いまして、様々な国との関係、計画を作る関係で事務的にこういう形にならざるを得なかったというご説明いただきまして、事務的な事情は十分に理解しますし、こういう選択肢しかなかったというのも十分に理解をいたします。

一方で私は公共政策を専門にしておりますので、研究者という視点から苦言というか、コメントだけさせてもらえればと思います。

そもそも何のために計画があるのか、何のためにビジョンがあるのかということを見ると、このビジョンを達成するために、毎年度、職員の方々は一生懸命頑張っていると思います。

その中でただただ期間を延ばすということは空白期間を作らないためとっておりますが、実質空白期間を作ることと同じであり、さらに良くないことは、令和３年度の効果検証結果と比較して達成されている目標まで横置きになっており、達成したけれども今年もまだやっているように見えることである。そういう意味ではもしも本当に時間があるのであれば、達成したところだけは目標値を上げるとかという考え方もあったのではないかなというのの一つ。

そして改訂をするのであれば、やはり年度途中の今というタイミングではないのではないだろうかと思います。もう今年度事業が半分進んでいるのに今年度の計画ができていないというのはやはり対応としてはおかしいのかなということを考えれば、もっと早い時期にやるべきではなかったのかなとコメントさせていただきます。

【富澤秘書政策課長】ご指摘ありがとうございます。ただ一つだけ申し上げます。この

総合戦略の計画期間を1年間延ばすというお話をさせていただいておりますけれども、現在の戦略が令和5年度までの計画でございまして、本日ご説明させていただいたのは、計画期間を令和6年度まで伸ばしたいということでございます。

そして、令和6年度中に令和7年度以降の戦略を作りたいということでございますので、ご了承願いたいと思います。

【高橋忠和委員】4ページ目の年代別の転出入の状況のところ、やはり18歳から21歳、22歳から24歳の転出超過というところが見られますが、花巻市内の各経営者様の話を聞くと、やはり新卒の採用がなかなか難しいという状況がありまして、その理由はやはり新卒の方々との接点がなかなか見つけられずに、会社をわかってもらえないという話を聞きます。転出する理由があるはずですので、転出する方々の分析をきちっとした上で、主としては市内の経営者様と新卒者との接点をもう少し増やすような、施策を行っていただけると非常にありがたいなと思います。

既に行っていることも重々承知しているところではございますけれども、もっと実効性のある、若い人たちが花巻市に残ってもらえるような施策を打ち出していただけたらなと思います。

【中村良則座長】もっともなご意見だと思います。

【冨澤秘書政策課長】御意見ありがとうございます。具体的な取り組みについては、少し検討させていただきたいと思います。

以前は転出される方にアンケート調査を行っておりまして、転出されるのはどういった理由ですかと伺っていたこともあったと聞きましたがなかなかお答えいただけず回収率が悪いということもございまして、現在は行っておりません。ただし、例えば高校生ですとか、地元にも大学がございまして、そちらの若年層を対象とした意向調査などをできるか検討してみたいと思います。ご意見ありがとうございます。

【佐藤充委員】連合岩手花巻北上地域協議会の事務局次長を仰せつかっております佐藤と申します。労働側の代表として今の産業とか雇用関係の話を簡単にさせていただいて、意見とさせていただければと思います。

先ほどの人口ビジョンの改訂案の29ページに雇用就業の状況というところがありますが、この辺り特に産業的にいろいろ変動が多い中で、この岩手という地域で働く就業者の年齢層の平均値が高く若い方々が少ない状況であり、恐らく中小企業の方々は特に実感されていると思います。

特に私が就任している会社でも、もう20代はいないとか、30代が数人だけで50代が20人も30人もいるような、かなり熟練者だけが残ったような会社というのがあって、今後引き続いていく産業のために若手が欲しいというよりは技術を伝える方がいなくなってきたというところにとっても危機感を覚えているというのがございまして。

先ほど花巻市の話にもありました、近隣市に産業の規模が大きい会社などが立地され、そこでは新入社員を200人以上取るという、かなり違う動きがあるため、そちらの会社の平均年齢が20代というが、私の会社では40代後半くらいというようになんかなり就業者のバランスが変わってきている。

その中で、総合戦略には花巻市として新たに若い方を定住させることや、働く魅力

を伝えることを方針としてしっかり書かれていますけれども、この中で花巻市としての売りはなんだろうと考えました。今まで見てきた中では、やはり子育て世代への補助などがしっかりとあると資料などに載っておりました。

支援を求めている方に対してはしっかり伝える環境やルートなどはあると思いますが、全体的な花巻市の魅力として、若い方が市の取り組みについて知っているかが、これからの課題なのではないかと思います。おそらく他の市町村には求める支援がなかなかないというときに、やはり花巻に住むという一定の利点があるのではないかと思います。

特に若い方々は利点や効率に敏感な方が多いため、少し自分に合わないと思うことを求めたり別の会社に行ってしまうりする流れにありますから、総合戦略の新しい人の流れを作るというところで、目標値を今の基準値から大きくしなきゃいけないというところが数字からも見えますけれども、特にシティプロモーションというところで、花巻市として見える化という部分をかなりもっと大きく打ち出しても良いかなというのは私の実感でございます。

他の県からすると、産業について花巻市がそこまで打ち出せるかは難しいところもありますし、私自身、製造業者としても頑張っているところがありますけれども、やはり今はもう近隣市の産業が変わりつつある一方で、住むなら花巻とよく言われるところもございませう。

なので、やはり住まいとして花巻市を見ている人もいるし、これから花巻市を見た人がその認識に気付けるような下地を作っていくべきでして、子育て支援について花巻市は強いと大きく掲げて、そしてそれはホームページだけではなく、高校生や大学生の目に触れるように、例えばのぼり旗でも掲げてやれという意気込みでやっていければなというような提言が1つになります。

あとは住む環境です。空き家バンクなどの移住・定住施策というのは、利用したことがない方には理解するのが難しいところがあるので、若い方々に花巻市はこんなことをしていて、このように進めるよという情報を高校生や大学生が容易にアクセスできるような何かを構築していければいいのかなと思っております。

【中村良則座長】積極的にアピールしていくんだということ。大学でもいろんな取り組みしますが、それに参加した学生は花巻市ってこういう魅力があるんだ、こういう人が活動しているのだと気づきと感動を得るが、それが次の世代に繋がっていかないという課題もある。

【浅沼幸二委員】花巻工業クラブの事務局をやっております浅沼と申します。

先般、花巻工業クラブの主催で、花巻ものづくりEXPO2023というものを開催しました。これは2009年にテクノフェアというのを実施したのを最後に花巻工業クラブとしての主催のイベントはなくなりましたが、その後、市が主催するという形で花巻大博覧会に替わりしばらく続けていただきましたが、岩手国体の開催時に体育館使用ができないということで、そこからストップしておりました。

今回花巻工業クラブが4年前に30周年を迎えるということになりまして、その記念事業として、花巻ものづくりEXPOを立ち上げましたが、コロナ禍によりずっと延

期となり、令和5年10月27日の開催にこぎつけました。

テクノフェアとの違いはですね、市内の高校生を全員呼びまして、高校のOBが就職した会社のPRをして、生徒さんたちに魅力を伝えておりました。もう2009年からだいぶ時代が変わりまして、今生徒たちが何を求めているのかがつかめない状態がありまして、参加者が少ないのではと心配しておりましたが、今回、大迫高校、花巻農業高校、花北青雲高校に声をかけましたら、430人の生徒に参加していただきました。

開催の様子を見ていますと、生徒たちがこんなものを作っていたんだとか、こういう会社もあったんだという非常に気づきの場になったのかなと思っています。生徒たちが積極的に出展者と会話してるシーンがたくさんありましたので、これも以前ですと、やりたくない面白くないなという態度でダラダラやって帰っていましたが、今の生徒たちは逆に自分がちょっと気になることがあると、自ら声をかけたりと、非常にフレンドリーに接していて会場が盛り上がった印象でした。

私が一番思うのは、本来であれば中学生ぐらいから市内の企業さんたちに触れ合う機会をたくさん作るべきだと思いますし、もっと広げるのであれば、学校の先生と市役所と、それから商工会議所、工業クラブ、観光協会がどこかで年2、3回ディスカッションするなどの話し合いの場をつくる時期に来ているのではないかなと思います。

大迫高校からはアンケートのようなものが送られてきまして、できれば会社に勤めてみたいなど意欲的なコメントが見えてきましたので、そういう場を提供することによって、ものすごく子どもたちの行動が変わっていくのではないかなというふうに思いますし、我々が学生の頃は東京に憧れて行きましたが、当時は東京まで6時間ぐらいかかりました。

今は日帰りできる時代で、東京に住むという感覚よりも東京に遊びに行っ来てくるって感覚になってきているので、住まいは岩手花巻でというような教育をして少しずつ浸透させるべきではないかなと思いましたので、ぜひ市もその辺のところを企画していただければなというふうに思います。

【中村良則座長】 住まいは花巻でというのは確かにそのとおりですね。昔だと会社の人結構出前授業などされておりましたが、今は実施しているのでしょうか。

【浅沼幸二委員】 出前授業はそれぞれにいろんな団体さんがやっていますけれども、学校に行っ来て教えるのもいいんですけども、違う学校の生徒たちがわいわい来っ来ていう方が刺激的になるんじゃないでしょうか。学校でやるとじっとしてまっすけれども、バスに乗っ来て連れてきて、1時間半見て回っ来ていいよって言うると、子どもたちは子どもたちなりに楽しんでるような印象を受けるので、出前授業もいいですが、逆に課外授業をさせた方がいいのかなと思います。

【佐藤充委員】 花巻ものづくりEXPO2023に出展しておっまして、高校生とかも話を聞きに来てくっけていたと聞いておりました。普段はなかなか触れられない環境や求めてみないと見えない世界をわかりやすく目の前に置いてあげる機会は若い方が新しい知識を得られるとても有意義なものだと思っしておりました。このような環境を市が先導的に行う形もいいと思いますが、企業の連携を繋ぐような形の活動としてやっただけるといいのかなと思います。

ある程度年齢の高い方々で仕事がなければスポーツイベントをしたいと頑張っている方がいます。意欲のある方々には少しご協力いただけるような体制で何かできたらなと思います。

【中村良則座長】各団体でいろんな取り組みを行っている。それから市としても市の立場で行っていることがある。それらを外部の人、若い人にプロモーションが必要なのではないかなそんなお話だった。

【富澤秘書政策課長】情報の発信の仕方については、第2次花巻市まちづくり総合計画の策定作業の中で関係団体との意見交換や若者のワークショップの中でも、市が行っていることが届いていないというのが実情だとのお話をいただきました。また、若者が花巻から出ていくことを抑えられないのかというご意見をいただきました。まずは花巻市が行っている取組を市民の皆様をはじめ、若者に届くように努めたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

【石川恭也委員】県南広域振興局の石川です。本日はどうもありがとうございました。

今皆様方から花巻で取り組まれていることを様々お聞きしまして、花巻市は本当に他の市町村よりも若い方々を巻き込んだ取り組みをたくさん行われているなど感じております。例えば、まなび学園やなはんプラザなどで高校生の地域課題解決に向けたワークショップなどを開催されていたり、富士大学の学生さんたちが地域で活躍されていたり、また、商店街の空き店舗を若い方々がリノベーションして新しいお店を出していたりして、そのような取組が花巻まつりの盛り上がりにつながっているなど、街なかを中心に様々、若い方々のエネルギーが集まっているように思います。

高校生などは進学・就職を機にどうしても1回外に出てしまうことが社会減に大きく影響しているという話もありましたが、そういった中学、高校の若い頃に地元の課題解決に取り組む、いわゆる探究学習などで課題解決に取り組んでいる経験をした子どもたちが、今いったん進学・就職を機に外に出ている部分があります。実はそれが後々効いてくるのではないかなと思っております。少し即効性がないところがなかなか行政としては苦しいところだと思いますが、これが先行投資として効いて、5年後10年後に戻ってくる子どもたち、若者たちが増えてくるということ。もちろん高校卒業時の地元就職、地元定着を増やすということはとても大事ではありますが、一方で、そういう中長期の効果も期待しながら、今新しく取り組み始めたことの効果はなかなか翌年度などに見えてこなかったとしても、取り組んでいる事業実績等を見せていきながら、こういった中長期のビジョンや総合計画を策定して10年後の花巻市はどうなっているか、何を目指しているのかということを考えて取り組んでいくことも大事なかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【中村良則座長】確かに若者は外に出ているいろんな情報を仕入れてまた地域に入ってくるだろう。それが地域を活性化する大変良い要素なのでしょう。

予定された時間が迫ってまいりましたので、本日の議事は終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

特になし

5 閉会